

第 71 回 (平成 26 年度第 6 回) 番組審議会議事録

1. 開催日時 : 平成 27 年 3 月 20 日 (金) 午前 10 時～午前 11 時

2. 会 場 : 西宮市職員会館 第 1 中会議室

3. 委員の出席 : 委員総数 : 7 名
出席委員数 : 5 名

放送事業者側出席者	代表取締役社長	: 1 名
	統括部主査	: 1 名
	統括部主事	: 1 名
	顧 問	: 1 名

4. 議題

番組内容についての審議

「ノーマライゼーションにのみや」

平成 27 年 3 月 14 日 土曜日 放送分

5. 議事概要

社長より、今年 2 回目の開催であることを述べ、出席者紹介をされる。事務局より委員総数 7 名中 5 名の出席で審議会は有効に成立している旨の報告がなされた。

その後議題に沿って各委員から意見をいただき、必要に応じて放送事業者側が説明・回答しながら進められた。

6. 審議内容

(1) 番組の審議

委員長：聴いていただいた番組について質疑応答に入ります。お感じになった事を忌憚なく発言願いたい。

委員：収録は月に1回と伺ったが、放送も月に1回ですか。

事務局：放送は第1・第2土曜日の午前11時半から12時で月2回放送しています。

委員長：総集編ということでしたが、いつもこんな感じですか。

事務局：今回は年度末の総集編ということでしたが、通常は月に1回の収録に障害のある方に来ていただいて、障害があっても普通に生活していますとか、こんな事に困っていますなどを話していただいたり、特別支援学校に通っている女の子が3ヶ月に1回くらい来て「この間はダンス大会があって楽しかった」とか前向きな話を発信してくれて、ラジオに参加することが楽しいからまた来たいとか言っていたりしています。また今回ご出演の吉田会長のように障害をお持ちのお子様の保護者さんにも来ていただいたりしています。またイベントに出向いて収録することもあります。

委員：普段の内容を聴きたかった。普段の番組ならいろいろ意見が出たと思うが、総集編で1年を振り返ってということで、身内受けた話が多く、正直何の話をされているのかよく分からなかった。

委員：1年間ずっと聴いていたら内容も分かるけど、聴いたことがないのでよく分かりませんでした。

委員：私も父母の会の方々や、中身を少しだけ知っているからそういう番組内容かと期待していたが、よく分からなかった。父母の会のお父さんやお母さんはすごくしっかりしておられて、いろんな面でも強いです。

事務局：失礼しました。父母の会の方がゲストや内容など率先してコーディネートしてくださるからすごく助かります。

委員：西宮市でも今は「ストップ・ザ・無縁社会」というのを謳っているのも、もしよかったら一般の方も参加して知恵があったら教えてくださいとか、そういう声掛けもいいと思う。

事務局：参考にさせていただきます。

委員：総集編ということだったんですけど、私が見慣れた総集編は振り返りが少しあって、例えばテレビだと「見たことあるなあ」とか映像が出てきて、それに関して「あの時はこうだった」などの構成があるようなイメージですが、それが無くてお二人の思い出話で進められていた。

事務局：吉田会長が今年度はほぼメインで出演されていたのでこのような総集編になったのですが、たしかに初めて聴いた方は分からないと思います。

委員：やはり普段の回を聴いてみたかったというのがひとつと、大学に勤めているのですが昨年車イスの方が入学されて、彼女が来たことで周りの友達も自然に手を貸す。また、例えばエレベーターに乗るだけでも後ろが見えなかったりするので怖い思いをします。そういったところも後から気が付いて、「ウチはここが足りなかったんだ」ということをその子に教えてもらえることが多い。そんな感じで私たち健常者が分からないことに気づけるような番組なんですよ？

事務局：そうです。

委員：障害あるなしに関わらずというところで、障害のある方の友達とか一緒に来てくれるとまた面白くなるんじゃないかと思います。

事務局：この番組がキッカケでは無いのですが、車イスが通れるようにスタジオを作り変えました。

委員：障害のある方がメインになったり、雇用したりとかは考えてないのですか。先程話に出た女の子が積極的なら、就業支援とかを利用して、その子に対しても未来の一步を作ってあげたらいいんじゃないかなと思うし、さくら FM としても企業アピールにもなると思う

事務局：貴重なご意見として参考にさせていただきます。

委員：玉木さんがあちこちで講演会されるので健常者の方たちが支援しているが、最近社協の方でもそういう講演をされている。昔に比べて障害のある方のアピールの場が増え、受け入れ先も増えたので、そういう社会になったと実感している。

事務局：私も番組を担当させていただき前向きな方ばかりで驚いています。また西宮は住みやすいという意見を多く聞きます。

委員：障害者の働く場所もあって、遠くの方から西宮に移り変わって良かったという意見を聞いたことがあります。

委員長：すべてが前向きな人ばかりじゃないんでしょうけど。

委員：あとは障害者の両親が亡くなってしまったあとの不安もあるでしょうね。

委員長：関係ない話かもしれませんが、家の前で花に水やりしていると集団登校の児童が通っていくけどまったく挨拶しないです。連れてくる人も挨拶しないし、学生も挨拶しない。その辺の地域のつながりができてくれば、障害を持った方でも過ごしやすくなるんじゃないかと感じます。悪い奴が多いからそういう社会が哀しいですね。

顧問：放送日にこの番組を聴いてさっぱり分からなかった。ただ今日改めて聴いてなんとなく分かった。聞き手の方があらかじめ出演者の意図を聞いて、それをうまく聞き出して反復していく。これだけの時間なので要点を3つ位に絞って、リポートしていかないと内容が掴みにくい。昨日 NHK の「あさイチ」でラジオの特集をしていて、テレビの人とラジオの人は全然違う。やっぱりラジオの

人は喋り方がゆっくりしている。ところがテレビの人はついつい画面に頼るから「この」とか「あの」とかいう言葉で済ましてしまう事が多いけど、ラジオの人はものすごく言葉が豊富なんですよね。相手が言ったことをオウム返しするのだけでも、同じ言葉じゃなくて聞き手側に回って、聞き手がわかるような言葉に障害者なら障害者、団体なら団体の言葉を素人さんに分かるように言い換える。それがラジオの難しいところだけでも、非常に大事なところなんです。テレビは映像と音声、そしてテロップもある、そして五感のありとあらゆるところに訴えてくれるけど、ラジオは聴くだけですから、言葉の意味がわからなかったら、聴いている人の立場に立って「それどういう意味ですか?」とか「これはこういうことですよ?」というように繰り返す。他の回も聴いたが、障害を持った方が出てくるので、自分の思いが先に走ってしまっている。思いが先に走ってしまっているから聴いている人は何となくしか伝わらない。だからそこは聞き手側に回って、聴く人の立場に立って繰り返してみる。そして言い直してみる。そういう作業がないとせっかくの貴重な番組で一般の方にも障害者に対する理解と協力を求めないといけない。わずか30分といえども貴重な時間ですから、効果的に使うようにしっかり打ち合わせして要点を繰り返すという締めをしないともったいない。ラジオの難しさが特に今日の番組に出ている。

事務局：貴重なご意見ありがとうございます。

委員：今日の放送で親子3人の話があったが、そういう話をもっとしてほしい。

堀 兼：何回か審議委員会に出席したけど、今回のパーソナリティが一番聴きやすかった。

事務局：竹之内由加さんですね。ありがとうございます。

(2) 番組以外の審議

委員長：他にご意見はありませんか

社 長：本日はありがとうございます。今の番組審議委員のみなさんになって初めは番組のいいところを褒められていましたが、最近は思っていることを言って戴けるようになってありがたいです。また、これからも感じた事を言って戴き、我々の成長につなげたいと思います。また今日の番組を聴いて健常者と障害のある方と一緒に生きていくためにはどうすればいいかというのを改めて考えさせられました。それと番組表を年に2回作るのですが、この春からほぼ倍サイズに今作っているところです。次回は新しい番組表を含めていろいろとご意見戴きたいですし、我々も頑張りますのでこれからも宜しくお願いします。

議長はその他の意見がないことを確認し、審議会を閉会する旨を述べ社長は閉会にあたっての挨拶を行った。なお、次回審議会は平成 27 年 5 月 19 日午前 10 時、会場と審議番組は後日改めて連絡する旨を確認し、議長は午前 11 時に閉会を宣言した。議事の経過を明確にするため、議事録を作成し委員長及び出席委員の記名押印をする。

7. 審議機関の答申または意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法

近畿総合通信局への提出が完了次第

「さくら FM」のホームページ <http://sakura-fm.co.jp/>にて掲載

平成 27 年 3 月 23 日
西宮コミュニティ放送株式会社